

「幸せの海に生きる」

島根県 正禅寺 住職 吉長 裕教
しやうぜんじ よしなが ゆうきやう

先日、仏前結婚式の「式師」を務めるご縁をいただきました。式師というのは、式を司り、婚姻の契りを見届ける役目です。

式は、まず鐘が打ち鳴らされ、ご本尊様への礼拝に始まり、「お二人の幸せを祈願する」啓白文を謹んで読み、「浄らかな水を頭上にそそいで、御仏のいのちを頂く」儀式へ進みます。次に式師から夫婦数珠を授け、指輪の交換、盃事を終えた後、いよいよ新郎新婦は御仏に「今日を迎えた喜びと、決意の気持ちをしたためた」誓約文を読み上げ、式師も証人として署名します。その後、おさとしとして「今後、必ず訪れるさまざまな困難を越えることができるようにと願いを込めた」お話をし、黙想を終え読経します。これは、両家のご先祖様に報告するための法要であり、仏前結婚式ならではのひとときです。厳かな中に、式が滞りなく終わりました。

新郎は幼い頃から両親に連れられて、よくお寺にお参りし、また除夜の鐘を欠かさず撞きに来ては私と話をしたものです。成長した新郎が、出会った新婦と仏縁を結ぶ気持ちになったのも、自然なことに思えます。式の中で、真つすぐに私の目を見ながらおさとしを聞く二人の姿に、輝く未来を確信できました。

お寺には、喜びの場面が多くあります。私が住職を務めるお寺では、檀家様が結婚された時、あるいは赤ちゃんが生まれた時には、必ずお参りに来られます。人生における喜びを、御仏の前で迎えられるのは、とても幸せなことです。

観音経の一節には、『幸せの海は、無限に広がっている』という意味の言葉、『福聚海無量』とあります。「福聚海無量」の「海」は、海という字を書きます。この「海」は、『今自分が生きている場所』を指します。

人が生きる道程には、嬉しいことや楽しいことよりも、辛く苦しい場面のほうが、遥かに多いことでしょう。しかし、喜びの瞬間を、御仏に報告することや、誓いを立てることを重ねていくと、雨が集まり川となり、ついには、海となるように、喜びもまた、集まることによつて量ることのできない、無限大の幸せへと広がっていくのです。そして御仏は、今ここに生きる私たちを、慈しみの眼差しで見守っていらっしゃいます。